



日乗連ニュース ALPA Japan NEWS

発行:日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
幹事会
〒144-0043
東京都大田区羽田5-11-4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770
FAX.03-5705-3274
E-mail:office@alpajapan.org

www.alpajapan.org

Date 2005.09.20

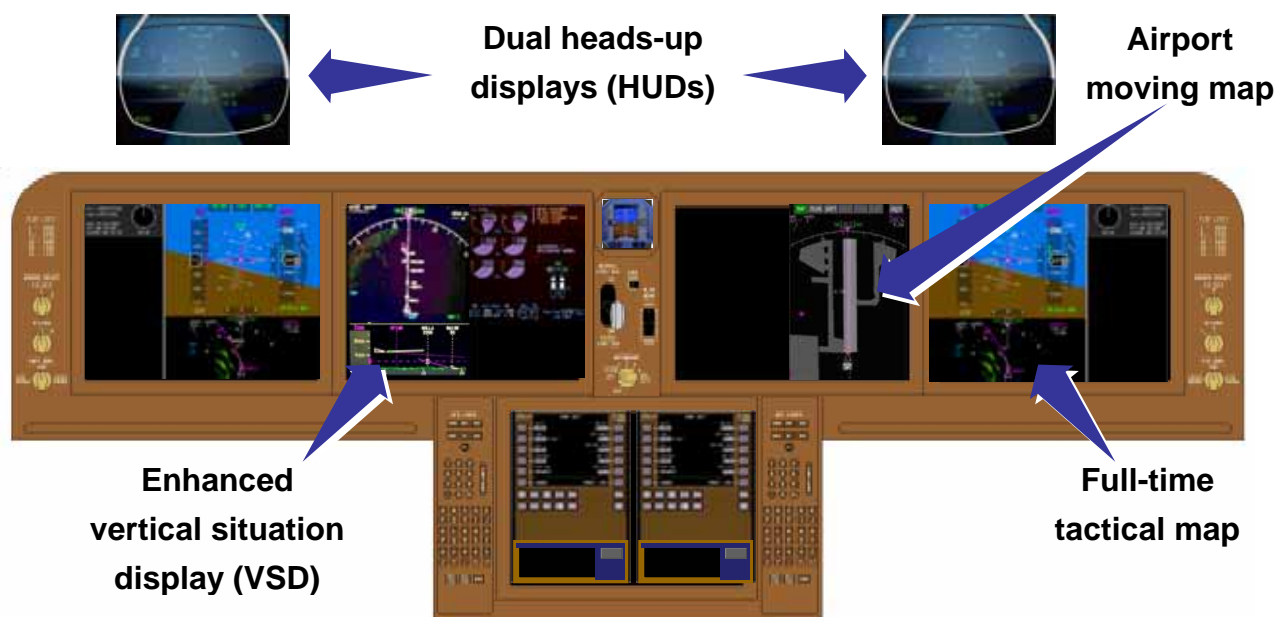
No. 28 - 46

Boeing 787 Dreamliner Flight Deck Conference 報告 ADO (Aircraft Design & Operation)委員会

2005年8月31日 ボーイング社は、B787 ドリームライナーの操縦室を、一般公開に先駆け IFALPA メンバーにシアトルで公開しました。IFALPA 会長 Captain Dennis Dolan はじめ IFALPA メンバーの 33 名(ALPA Japan から 2 名)が参加しました。すでに ANA は B787 を 50 機、JAL は 30 機購入を決定しています。

冒頭に B787 プログラムの Vice President Mike Bair は、「B787 の操縦室は、パイロットがどのように航空機を操縦するか注目し、パイロットが最適な意思決定をするために必要な情報を提供するよう、パイロットからの要望を取り入れて設計されている」と述べました。

B787 の操縦室は、従来の表示より一回り大きな Display を装備し、操作をより機能的にし、安全に TAXI、離陸滑走するために必要となる Airport Moving Map (空港地図)や、航空機に近づく他の航空機、および障害物の情報を表示する Vertical Situation Display (垂直状況表示装置)など、新たな機能も装備しています。



B787 プログラムの Chief pilot Mike Carriker は、「B787 の操縦室は、従来の使い慣れた機能と新たな機能を搭載し、パイロットに最適な乗務環境を提供する」と述べました。

複合素材により、Cabin Altitude が 6000ft 程度に抑えられ、Dual HUDs (Head Up Display) が標準装備となり、外部監視をしながら計器をモニターでき、EFB (Electronic Flight Bag) により Performance の計算も機上で瞬時にできるようになるなど、乗務環境と安全性の向上が図られているとしています。



The EFB can provide:

Video surveillance

Computation of performance data

Navigation charts

Electronic documents

Electronic logbook

IFALPA 会長は「新機種開発にあたり、デザイン過程の早めの段階から、パイロットの意見を設計に反映させるのは非常にユーザーフレンドリーである。それは、より安全な航空機と、より良い職場環境を意味する」と述べました。

IFALPA ADO 委員会では、世界の主な航空機事故原因である CFIT (Controlled Flight into Terrain)、Runway Incursion を防止するために、オブザーバーのボーイング社、エアバス社を含め、さまざまな討議を重ねてきました。

IFALPA では今後も新機種の設計段階から「The global voice of Pilots」が活かされるよう各方面に働きかけていきます。



日乗連では、引き続き世界の動向を注視し、最新の情報をお伝えします。

